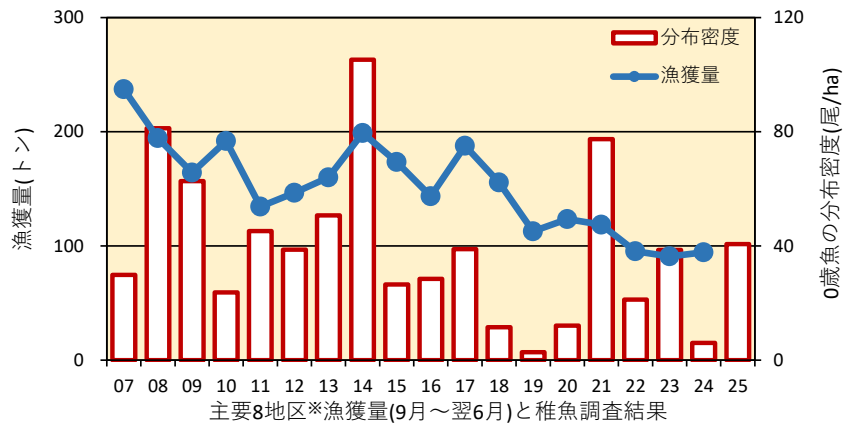


## 2025年度稚魚調査結果

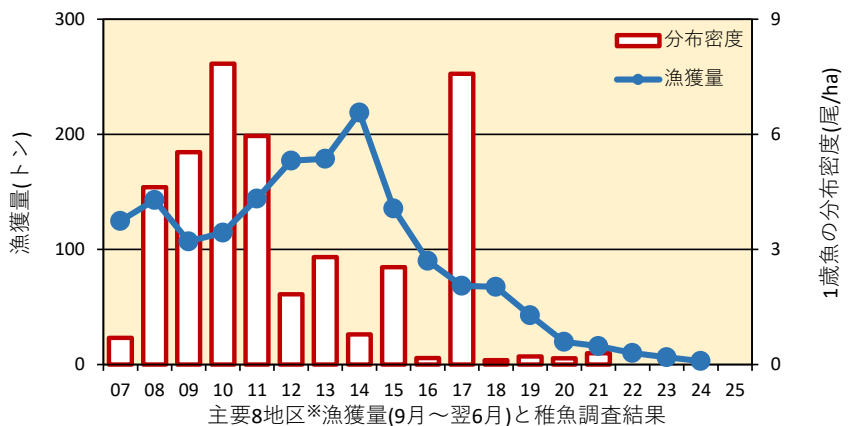
### ○ヒラメ

- ・2025年の稚魚調査において、2025年生まれの0歳魚の分布密度は40.7尾/haで、2023年並みの中程度の水準であった。
- ・主な漁獲対象は2歳以上。
- ・2024年の0歳魚の分布密度は低水準だったものの、近年は中程度～高い豊度の稚魚発生が見られる年があり、今後、漁獲量は横ばいで推移すると考えられる。



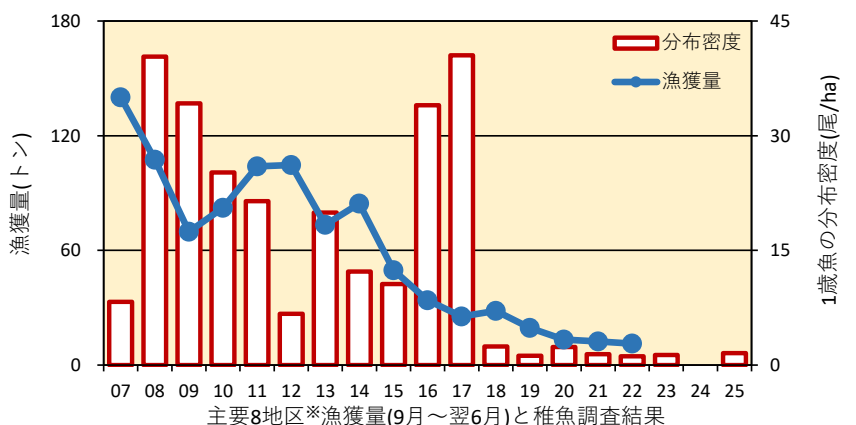
### ○ヤナギムシガレイ

- ・2022年以降の稚魚調査では1歳魚が採集されておらず、2025年の調査でも2024年生まれの1歳魚は採集されなかった。
- ・主な漁獲対象は3歳以上だが、現在の漁獲物の大部分が2016年以前生まれの高齢魚となっている。
- ・1歳魚の分布密度は、2017年に高水準だったが、その後は極めて低調に推移しており、今後も漁獲量が減少すると考えられる。



### ○マガレイ

- ・2025年の稚魚調査において、2025年生まれの1歳魚の分布密度\*は1.6尾/haで、極めて低水準であった。
- ・主な漁獲対象は3歳以上だが、現在の漁獲物の主体は2021年生まれ、2019年生まれと2016年以前生まれである。
- ・1歳魚の分布密度は、2016年と2017年に高水準であったが、その後は極めて低調に推移しており、今後も漁獲量が減少すると考えられる。



○例年調査結果を公表している **マダラ** については、都合により今年度調査は**未実施**

※主要8地区: 山北、岩船、新潟、出雲崎、名立、筒石、能生、糸魚川

\* マガレイ1歳魚の分布密度: 2017年まではマガレイ定点における平均分布密度としていたが、マガレイ定点での採捕尾数が減少した2018年以降は、マガレイ・ヤナギムシガレイ稚魚調査の全定点のうちマガレイ1歳魚有漁定点における平均分布密度として算出した。